

感染症ニュース

No.244 2025/08/22

文責：竹鼻 純子

<流行中の感染症>

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）

感染者数が増加している。国内では、5月ごろから、オミクロン株から変異したNB.1.8.1が急速に広がっている。激しい喉の痛みが特徴で、締め切った部屋でクーラーをかけ続けて空気が乾燥し、防御力が低下した喉にウイルスが付着して発症すると考えられる。以前に比べると症状が軽くなり、受診せず行動し続けるため、流行が拡大しやすい。とはいえ高齢者は重症化しやすく、コロナによる入院者数は増加している。今後も高齢者の重症化予防のために、新しい流行株に対応したワクチン接種や、高齢者施設などでの徹底した感染予防策の継続が必要で、普段の生活でも基本的な予防策を継続し、手洗いに加え、特に3密となるような場面ではマスクを着け、よく換気することが大切である。

溶連菌感染症

発熱、のどの痛み、発疹が主症状で、小児のみならず成人の感染も多く、コロナ明けから高水準で流行が続いている。再感染や再発例も多い。経口抗生剤が有効だが、症状が治まっても10日前後服用を続けないと腎炎などの合併症を併発する。

感染性胃腸炎

高温多湿の時期は細菌による食中毒にも要注意。石鹸による手洗いを徹底する。

伝染性紅斑（りんご病）

ヒトパルボウイルスB19による小児の感染症。感染から10日前後で風邪症状があり、その後さらに1週間ほどして頬が赤くなり、上腕や大腿、体幹も赤くなる。風邪症状の頃は他の人への感染力が強いが、発疹が出て診断が付いた時には感染力は無くなっているため、登園・登校禁止にはならない。まれに成人も感染・発症し、特に妊娠初期の妊婦が感染すると流産の危険性あり。

百日咳

百日咳菌による呼吸器感染症。感染後、1週間程して風邪症状となり、その後、呼吸困難になるほどの強い咳が2〜3か月続く。生後2か月未満の乳児はワクチン接種をしていないため、感染すると重症化し、脳症や肺炎を起こして死に至ることもある。家庭内感染も多いため、周囲に長引く咳の症状がある人がいる場合は要注意。